

# 京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

3頁 共同宣教司牧推進チーム

11頁 夏のキャンプ情報

発行 京都司教区  
責任者 村上透磨  
京都市中京区河原町  
三条上ル  
カトリック会館  
FAX  
075-211-3041  
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)  
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。  
TEL・FAX 0794-31-8601



(写真は、「アフ  
ガニ難民のこども  
たち」、撮影・広  
河隆一)

7  
2002

今、私たちの住んでいる国は不景気のドン底にあり、会社で働く多くの人はリストラにおびえ、政治や行政が行っている数々の不正に憤りを感じながら、自分を見失い、疲れ、人間らしさを失いかけています。若者たちは自分自身のプライドと自らの生きる目標を持てずにつらっています。

私たちを取り巻く現代社会の諸問題を見渡すとき、世界のすべての人々が「平和に人間らしく生きる」ということが、いまほど切実に求められる時代かもしれません。福音書のほとんどの記述は、物事をプラスの方向にとらえ、希望をもって生きることを伝えています。そのように考えると、現実は厳しいものかも知れませんが、「平和」に、そして「人間らしく生きるために、祈り、行動するチャンスが与えられていると理解することができます。

現代福音宣教の  
新しいニーズ

## 世界の中の日本と韓国、その明日に向けて

金壽煥枢機卿  
さむすーはん

(四月二十日河原町教会聖堂講演会要旨)



は「近くで遠い国」になってしまつたのです。

それでは駄目です、両国のためだけではなく、アジアの平和、世界の平和のためにも韓国と日本は「近くで近い国」になるべきなのです。

特に私たちカトリック信者は、民族や国は違つても、キリストのうちににおける兄弟であり、姉妹です。

この意味で、毎年両国の司教団が集まって歴史の問題に取り組んできたことは大変意義深いことといえます。

今日私に与えられたテーマは

「世界の中の日本と韓国、その明日に向けて」というものです。かつて韓国と日本は「近くで遠い国」と言われて来ました。しかしもつと長い歴史をたどってみると、韓国と日本は決してお互いに遠い国ではありませんでした。昔の人たちは、自分たちだけの「国」という小さな概念にとらわれていませんでした。ところが自分たちの「国」という狭い了見に振り回されるようになつたとき、両国の間

でも、それはうわべだけ、負けた側ではさらに深まつた憎しみが爆発の機会をうがいながら、くすぐり続けるのです。日本と韓国が「近くで近い国」にならなくてはいけない理由がここにあります。

この度はご招待いただき、ありがとうございました。

私は、日本と韓国、その明日に向けて」というものです。かつて韓国と日本は「近くで遠い国」と言われて来ました。しかしもつと長い歴史をたどってみると、韓国と日本は決してお互いに遠い国ではありませんでした。昔の人たちは、自分たちだけの「国」という小さな概念にとらわれていませんでした。ところが自分たちの「国」という狭い了見に振り回されるようになつたとき、両国の間

や葛藤を暴力で解決することはできません。たとえできた様に見えても、それはうわべだけ、負けた側ではさらに深まつた憎しみが爆発の機会をうがいながら、くすぐり続けるのです。日本と韓国が「近くで近い国」にならなくてはいけない理由がここにあります。

そのため私たちクリスチヤンは、平和を根付かせる植木屋にならねばなりません。それが今の世界で「近くで近い国」になるべきなのです。

特に私たちカトリック信者は、民族や国は違つても、キリストのうちににおける兄弟であり、姉妹です。

この意味で、毎年両国の司教団が集まって歴史の問題に取り組んできたことは大変意義深いことといえます。

この意味で、毎年両国の司教団が集まって歴史の問題に取り組んできたことは大変意義深いことといえます。

私たちは情報化、国際化の時代を迎え、世界は「地球村」と呼ばれるほどにまで縮小されつつあります。このような世界で生きていぐために必要なのは唯一つ、隣人との心の触れ合い、そして国同士、民族同士の正義と愛にもとづく協力ではないでしょうか。国であれ、民族であれ、個人であれ、憎しみも神から授けられたものだからです。

このように、神が愛で作り、愛で救つたからこそ、全ての人間には尊嚴があるのです。また、自由と幸福を追求するという侵すことのできない基本的人権が与えられたのです。

自分が認められ、愛されたいようには、他の人たちも認められ愛されることが必要だし、互いに尊重し、愛し合わねばならないのも、この理由によります。

日本の皆さん！

私は、日本人も韓国人も、信者である全ての人が、こうした認識を深くすることを切に願います。またそのため、イエス・キリストに出会うことができるよう祈ります。

## 共同宣教司牧推進チームが歩み始めました

担当司祭 西野猛生

五月十八日(土)午後、第一回推進チーム会議が開催され、「共同宣教司牧推進チーム」が発足しました。チーム・メンバー一同戸惑いながらも、努力してみようという前向きの姿勢をもって新しい歩みを始めました。おそらく試行錯誤の連続かと思います。例えば、「共同宣教司牧」・「福音」・「宣教」・「福音宣教」・「教会」など、教会用語として私たちが日常的に使っている言葉にしても、お互いに共通した意味内容で使われているかと言えば、決してそうではなく、一人ひとりの間で微妙に違ったアクセントを持っているのですから。

もしその違いが拡大していったとするならば、他の人に伝えるに当たって、伝言ゲームで経験するように、次々と微妙に変化し、伝える人によって随分と違った内容を伝えることになります。このようにして歴史の中で、教会の分裂も起こつて来たと思われます。私は

たちは、自分の考えではなく、イエスの福音を伝える使命をいただいていますので、そこから外れるわけにはいきません。私たちはより多くの人々と手を取り合い、聖霊の照らしを祈りながら分かち合うことを通して、共通した言葉の内容を共有して、イエスの良い知らせを人々にもたらしたいのです。そのためにも、小教区の枠を乗り越えて、より幅広く常に交わり、語り合い、心を通わせ、互いに協力し合う関係を作り続けることが大事なのではないでしょうか。

また、公会議で、「教会は福音宣教するために存在する」と宣言されていますが、そのためにも、一部の人たちだけでは工夫も限られ、計画性や継続性も不足します。より多くの人々と役割を分担し、互いに励まし合い、力となり合うことを通して、それぞれの人の働きもより一層活かしていくのであります。私が一人でし

ては、喜びをもって福音を伝えようと飛び出せる共同体、また、例外へ飛び出せる共同体、また、外へ飛び出して、周りの人々を通して働かれているイエスの福音を見つけ出して、互いに喜び合えるような共同体になろう」という動きではないでしょうか。

そして更に、教会共同体がキリストの生きたからだとして、現代社会の真っ只中にイエスの心が満ちあふれるようになります。(福音宣教)

ために、行事のあり方や教会の組織のあり方などをみんなで協力しながら見直していく必要もあるでしょう。

共同宣教司牧は、信徒・修道者・司祭が互いに自分たち自身の課題として、語り合い、祈り合い、分かち合って、実践していく、即ち「共に歩む」ということを基本に置いて、教区全体が活気に満ちた教会共同体となるようにという願いが込められた歩みなのです。そして、その動きを推進するために、教

ているのではなく、周りの一人ひとりがそれぞれの役割に徹することを通して、それらの人々と共に走っているという協働の姿こそ教行っているところです。

京都教区がキリストのもとに一置されました。

つになって、この困難な時代に福音を、喜びをもって生き生きと宣べ伝える共同体になろうとして、この「共同宣教司牧」を取り入れたのです。

そのためにも、教区ビジョン後に課題となっていた「バイブルのつまり」を思い出し、京都教区に属するすべての信徒にその情報が伝達されるよう、そのあり方も見直さなければならないことでしょう。

推進チーム・メンバーは、各ブロックへの司教公式訪問に同行することを含めて、これからそれがのブロックや地区、更には教区全体の現状を可能な限り把握し、互いに協力し合って評価・識別を行い、地区長とも協働しながら、より活気ある福音宣教共同体に向かって力を出し合うことになります。京都教区に属するすべての信徒一人ひとりが自分も推進チームのメンバーの一人であるかのよう

に協力し合って、司教と共に、教区を挙げてのこの動きをより一層推進したいものです。

## 共同宣教司牧司教訪問

### 奈良地区・南部ブロック

四月二十一日（日）、私たちは共同宣教司牧の新たな第一歩を踏み出したと感じた。共同宣教司牧推進のための「司教訪問ミサと集会」は奈良南ブロック（西大和・大和八木・大和高田・御所の四教区）からスタートした。

私はこの日を迎えるために司牧チームの指導のもとに、①アンケートの実施（信徒の知識と共同宣教司牧への意識を確認する）、②アンケートを資料として共同宣教司牧についての分かち合いを行った。その記録はすべて司牧チームのもとに集められた。

そして、司教訪問の日を迎えた。会場は大和高田教会。この日は、他の三教会での主日ミサは全てキャンセルされ、大和高田教会に集つた。

午前十時から共同宣教司牧への祈りを始めたミサ、そして、大塚司教の講話を受けて四教会の信徒



ごとに分かち合いを行った。そして、そのすべてのチームを司教は事前に編成された十六のチーム回された。チームに与えられた司教との分かち合いの時間は短いものではあったが、共同宣教司牧への疑問、積極的意見、悩み、望みなどが司教に投げかけられた。司教はそれぞれに的確に分かりやすく答えられ、また、耳を傾けられた。

あっという間に過ぎた集会の後、私たちを福音宣教へと導く派遣式が行われた。この日は私たちにとって共同宣教司牧理解と実践のための本当の第一歩であり、自分自身でその目標を見いだすための旅の始まりでもある

と思う。

すべての信者が本当に理解し、分かち合い、実践し、そして、祈りがなければ共同宣教司牧の果実を取り入れることができないと実感させられた一日であった。

具体的な活動が進み始めました。

## 名張教会青年会の紹介

代表 石田 剛

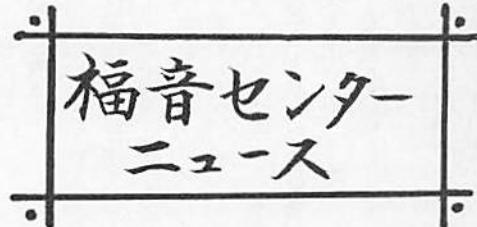
はじめまして、私たち名張教会青年会は活動一年目を迎えました。これまでの活動内容として復活祭・子ども会行事への参加、他教会の青年会との交流等がありました。現在活動の中心メンバーは二十代の社会人ですが、昨年に高校生二名が加わり、さらに未信者の若者一名を迎え少しずつですが前進しています。

このように当青年会が活動できるようになつたのは、「自分たちが通う教会だから自分たちで何ができるのか」という思いをみんなが持つていてことでした。そして、その気持ちを持った青年の間には共通した趣味がありました。「みんなで楽器が演奏できる」「みんなの前で演奏してみたい」そんな思いから、「復活祭で子どもたちが知っている教会の歌を演奏し、みんなに聞いてもらいたい」という目標が生まれ、実現することができました。

最後にこの記事を読んでもらっている青年たちに呼びかけます。自分たちで何かをやってみたいといふ気持ち、それを仲間に言える少しお勇気があればどんなことで自分たちで何かをやつてみたいと思います。学校や職場が違つてもちょっととした共通の話題（音楽・スポーツその他なんでも）を見つけ合つて教会の行事に取り入れ、みんなで交流を深めていきましょう。



## 養成コース



## ～いやされるかかわり 心の器づくり～

だれでも傷ついた人生をもっていることは共通している。

しかし二つの人生がある。1つは傷ついたままの人生。もう1つはかかわりの中でいやされていく人生である。どのような手当を受けるかによってその人の人生は変わる。

キリスト者として、私たちは、闇から光へ、絶望から希望へ、悲しみから喜びへつながる復活への信仰をいただいています。

自分自身の日常の小さな生と死の過越の体験と向きあうことを通してこの信仰をあたため、老いや死に向かう方へ、信仰・希望・愛をもたらすあたたかい援助ができる奉仕者となれるような心の姿勢、覚悟を学び、自らの器づくりを目指します。

このコースは病人訪問コースⅠを受けた方のために2年に一度開いています。

みなさんのご参加をお待ちしています。

講師 沼野 尚美氏

日時 2002年9月21日（土）14時～22日（日）16時30分終了

会場 ウィチタ聖ヨゼフ修道会 本部修道院 京都市バス竜安寺下車2分

----- 申込み 9月10日(火)迄に！ -----

郵便番号・住所・氏名・電話番号、コース名をご記入の上、

参 加 費 16,000円 を下記へお振り込み下さい。

郵便振替口座番号 00920-4-161844

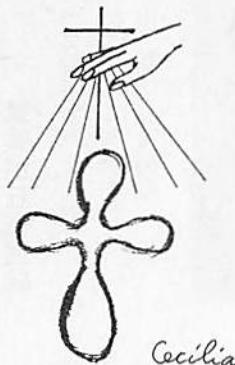
「カトリック福音センター養成コース」宛

〒604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 カトリック福音センター

電話番号 075-822-7123 FAX 075-822-7020

Eメール fukuin@Kyoto.catholic.jp

## 福音センターニュース



**あなたがたは**

**キリストの体**

(1コリント12:27)

最近、「からだ」がちょっとしたブームのようです。健康志向?もちろんそれもあります。けれど単なる健康ブームをこえてもっと広く、人間が生み出す文化の中で「からだ」がどれほど重要なものが改めて見直されてきたからでしょう。いわば「からだ」の復権です。体をとおして表現されることが、その人の人格の深み、その人そのものを表すことはわたしたちの日常の経験でもあります。

さて、わたしたちはミサの中で「キリストの体」を信仰告白とともに拝領します。「キリストの体」とはいったい何なのでしょう。「キリストの体」を白い小さいホスチアだけに閉じ込めてはいないでしょうか。

### 聖体奉仕者は教会共同体も運ぶ

古代教会で「キリストの体」といえば教会のことでした。さらには復活されたキリストも、ミサにおける秘跡としての聖体も「キリストの体」でした。人々はキリストの体を受けるとき、これらすべてを含む非常に豊かな「体」を受けていたのです。

ですから、今日教会の中で「聖体奉仕者」として「キリストの体」を運ぶとき、わたしたちは秘跡をとおしてキリストの体に結ばれたすべての人々、教会共同体をも運んでいるのです。

わたしたちはミサの中でキリストの体をいただくことでキリストの体に変えられ、パウロの「あなたがたはキリストである」という言葉が実現してゆきます。それはキリストの生き方を生きることにほかなりません。言い換えると、毎日の生活の中で具体的に人々の「隣人となる」ことによって、かぎりなくキリストに変えられてゆくことなのです。

### 福音宣教一口メモ

#### 信徒の司祭職

すべての信者は「王的司祭職」をもっています。キリストと一体となった信者の生涯は神を喜ばせる尊い供え物になるのです。聖霊によって生かされて愛に生きるというのは、神の心を一番喜ばせるようなささげ物なのです。

(『教会と信徒』より)

## こんなにはシスター

善きサマリア人修道会

登美が丘修道院

Sr 日宇美智子（写真前列）

Sr 山内スミ子（後列右）  
Sr 森川 晴子（後列左）



私たちはルカ福音書のたとえ話にある、強盗に襲われて傷ついた人を介抱した善きサマリア人のよう実際に生きたいと考えている修道会です。善きサマリア人修道会は、オーストラリアにおいて、一八五七年、シドニーの初代司教であったジョン・ビード・ボールディング司教の手で創立されました。言葉通り世界の全ての人々に「善きサマリア人」の姿で接するというのが創立の目的であり、わたしたちも毎日そのために生活しています。

現在オーストラリアには数百人のシスターがいますが、日本管区では、十五人ほどの小さな共同体です。また、フィリピンやキリバスでも活動しています。

登美が丘修道院は、登美が丘幼稚園の三階部分にあります。幼稚園関係ではシスターが園長を引き受けおり、また、園児の保護者には毎週一回、信徒と協力して宗教クラスで話をしています。教区カトリック協議会の役目を引き受けたり、所属している共同宣教司牧の奈良地区北部ブロックの教会で司牧の手伝いをしています。その他、大学での「キリスト論」の講義や、滞日外国人のお世話、特別養護老人ホームでの奉仕などを行っています。

日々、イエス様が示された善きサマリア人の生き方に倣うために、祈り、活動を行うよう努めていますが、なかなか難しいものです。

オーストラリアから修道会のシスターが初めて他の国に活動を広げて出かけた国が日本でした。最初に奉仕したのは長崎での被爆者援助で、その後、同じく長崎県の佐世保市で聖和女子学院（幼・中・高）の学校教育に取組みました。

現在オーストラリアには数百人のシスターがいますが、日本管区では、十五人ほどの小さな共同体です。また、フィリピンやキリバスでも活動しています。

## 福祉の窓 津カトリック保育園

児童福祉施設

津カトリック保育園

昭和四十一年、故トマス・A・バーリ神父様によって設立され、三十六年の歴史をもつ当保育園

は、津教会の敷地内にあり、楠の大木に囲まれ、緑多く市の中

心部に位置しています。

電話

○五九二二七二五一二

FAX

○五九二二七六六一〇

〒五一四一〇〇三五  
三重県津市西丸之内  
一八一—二十一



三、世代間交流も積極的に行い、行事の時に一緒に参加してい

ただいたり、安濃聖母の家のお年寄りとの交流も行っています。

四、秋のバザーでは、教会の方々の協力をいただき、大変盛り上がった一大行事となります。

## 良書紹介

## 『大きな木』

シェル・シルヴァスタイン著

篠崎書林

原文は「与える木」です。大きなりんごの木があつて、ちびっ子と仲良し、で始まる。この絵本は余りにも有名で、今さら紹介するまでもないかも知れません。

木はちびっ子がだんだん年取って行くにつれ、自分を与え続けます。その度に、木はうれしかつた、というのです。与え尽くして最後に切り株だけを残します。与える物のなくなった木は、年老いて疲れたちびっ子に「私は腰かけてお休みよ」と言います。男が腰かけると、木はそこで、うれしかった、と言つて終ります。

与える愛、犠牲を尽くす愛、そこに最高の感動があると読む人が感じて下さるなら……。私はこの木にキリストの与え尽くす愛を見たのですが……。

## 『くまさぶろう』

もりひさし著

こぐま社

今度は少し楽しい絵本の紹介をします。「与える愛」というより「奪う愛」もあるというこ

とです。

くまさぶろうという大泥棒の話。くまさぶろうは、はじめ上手な泥棒ではありませんでした。でも修業して、動物園の象も、盗み取ってポケットにしまい込むなんてへっちゃらになるほど、上手な泥棒になりました。しかし、そのうち、こんないたずらな泥棒には満足できなくなりました。

そこで心を盗む泥棒に変身することにしました。こうして、人の悲しい気持ちや痛い気持ちやひもじい気持ちをぬきとることが出来るようになりました。その代わり、自分が悲しい気持ちや痛い気持ちやひもじい気持ちを味わうようになりました。でもくまさぶろうは、そんな泥棒になつて、あちこちを歩き始めました。きっと私たちのところにも来ているかもしれません。私たちの苦しみを、取り除こうとして下さる方って誰でしょ

## 京都教区・外国語ミサ

## 英語ミサ (ENGLISH)

- SAIIN CHURCH 西院教会 ~PAG~ASA COMMUNITY 毎週日曜日、PM 3:00
- FRANCISCAN HOUSE Every Wed. 3 p.m. フランシスコの家 每週水曜日、PM 3:00
- NISHI MAIZURU CHURCH Every First Sun. 3 p.m. 西舞鶴教会 第1日曜日、PM 3:00
- KUSATSU CHURCH Every Fourth Sun. 2 p.m. 草津教会 第4日曜日、PM 2:00
- NARA CHURCH Every Last Sun. 3 p.m. 奈良教会 最終日曜日、PM 3:00
- YAGI CHURCH Every Third Sun. 2 p.m. 大和八木教会 第3日曜日、PM 2:00
- KORIYAMA CHURCH Every Wed. 3.30 p.m. 大和郡山教会 每週水曜日、PM 3:30
- TSU CHURCH Every Second Sun. 2 p.m. 津教会 第2日曜日、PM 2:00
- YOKKAICHI CHURCH Every Third Sun. 1 p.m. 四日市教会 第3日曜日、PM 1:00
- SUZUKA CHURCH Every Fourth Sun. 2 p.m. 鈴鹿教会 第4日曜日、PM 2:00
- KAMEYAMA CHURCH Every Second Sun. 9 a.m. 亀山教会 第2日曜日、AM 9:00
- MATSUSAKA CHURCH Every First Sun. 2 p.m. 松阪教会 第1日曜日、PM 2:00

## スペイン語ミサ (ESPAÑOL)

- Iglesia de FUSHIMI 伏見教会 Segundo Domingo del mes 2 p.m. 第2日曜日、PM 2:00
- Iglesia de KUSATSU 草津教会 Tercer Domingo del mes 2.30 p.m. 第3日曜日、PM 2:30
- Iglesia de NAGAHAMA 長浜教会 Tercer Domingo del mes 2 p.m. 第3日曜日、PM 2:00
- Iglesia de SUZUKA 鈴鹿教会 Segundo y Tercer Domingo del mes 2 p.m. 第2・3日曜日、PM 2:00
- Iglesia de KAMEYAMA 亀山教会 Cuarto Domingo del mes 9 a.m. 第4日曜日、AM 9:00
- Iglesia de TSU 津教会 Cuarto Domingo del mes 2 p.m. 第4日曜日、PM 2:00
- Iglesia de YAGI 大和八木教会 Primer Domingo del mes 2 p.m. 第1日曜日、PM 2:00
- Iglesia de NISHI YAMATO 西大和教会 Segundo Domingo del mes 3 p.m. 第2日曜日、PM 3:00
- Iglesia de YOKKAICHI 四日市教会 Cuarto Domingo del mes 12 a.m. 第4日曜日、AM 12:00

## ポルトガル語ミサ (PORTUGUES)

- Igreja paroquial do KUSATSU 草津教会 Segundo Domingo do mes 2 p.m. 第2日曜日、PM 2:00
- Igreja paroquial do YOKKAICHI 四日市教会 Primer Segundo Domingo do mes 4 p.m. 第1・2日曜日、PM 4:00
- Igreja paroquial do SUZUKA 鈴鹿教会 Todos los Domingos do mes 6 p.m. 每週日曜日、PM 6:00
- Igreja paroquial do KAMEYAMA 亀山教会 Primer Domingo do mes 9 a.m. 第1日曜日、AM 9:00
- Igreja paroquial do UENO 上野教会 Terceiro Sabado do mes 7.30 p.m. 第3土曜日、PM 7:30

## 韓国語ミサ (한국어 미사)

京都コリアン・カトリックセンター  
第1日曜日 午前10時

お  
知  
ら  
せ

- ◆結婚講座▼13日(土)「人間の創造」中山真里氏、「愛の契約と夫婦の絆」大塚喜直司教 27日(土)「かけがえのない命・性」岡村裕医師、「夫婦の対話」シスター安井昌子 8月3日(土)「結婚と費用」福音センター一階大ホール会場 福音センター 8月3日(土)「人生を生きる」島本須美子氏費用 一人一万円(昼食付き)
- ◆聖書委員会▼聖書深読13日(土)中川博道師 10時~16時 場所 河原町会館6階 費用二千五百円(昼食代を含む)、持参品 聖書・筆記用具・ノート(お申込みは5日前まで)
- ▼聖書講座シリーズ「100匹の羊の群れ—聖書に見る福音宣教共同体」3・4日沼野尚美氏、10・11日大塚喜直司教、17・18日諭訪栄治郎師、24・25日泉 安弘師
- ▼聖書講演会(三重カトリック協議会後援)9月16日(月)三重県研宗館(ホール)テーマ アッバ父よ 講師 村上透磨師
- ◆典礼委員会▼典礼研修会20日

(土) 10時半~16時 西院教会  
講師 荒垣千敏教授 会費千円  
問合せ 北村善朗師電話○七五二二二)三〇二五まで▼教会の祈りと聖体贊美式 第一日曜日17時半河原町教会、第三土曜日16時半 衣笠カルメル修道会

◆部落問題委員会・正義と平和京都協議会▼学習会「アイヌ民族の現在」19日(金)18時半河原町会館6階ホール 講師 小川隆吉

◆三重カトリック協議会▼例会2日(日)月はお休みです。

費千円 申込=滋賀県の教会の信徒会長へ 問合せ=福音センター  
ク正義と平和奈良協議会28日(日)大和郡山教会 滞日外国人について(その8) 発題者 ピスカルド篤子

◆JOC(働く若者の集まり)▼集会27日(土)19時30分~21時京都勤く人の家(九条教会前)フリーターや、働く予定のある青年も歓迎します。問合せ090(8207)1831

◆京都力ナの会▼結婚相談室、例会7日(日)13時半河原町会館六階ホール

料金三十四万八千円(予定)以上問い合わせ電話075(643)2320

◆諸施設・諸活動から

教区委員会から

- ◆カルメル山の聖母莊嚴ミサ▼16日(火)15時 場所 京都女子カルメル会修道院(衣笠カルメル修道会)司式・説教 中川博道師

◆日本カテキスマ研究会in京都公開講座▼テーマ「新しい福音宣教を考える」8月7日島本 要大司教 8日大塚喜直司教 河原町教会地下ホール 受講料二千円

◆京都カトリック混声合唱団(月二回の練習、教区行事への参加、ミサの聖歌奉仕、施設訪問、チャリティコンサート)▼練習日14日(日)13時現地集合、16時現地解散 巡礼指導者 三保俊二先生▼

- ◆聖母教育文化センター▼日曜巡礼の旅「日本26聖人の足跡を訪ねて(京都堀川一条~松原)14日(日)13時現地集合、16時現地解散 巡礼指導者 三保俊二先生▼

◆聖書講座 毎週月曜日・金曜日内容 毎回テーマにそったお話を講師 安藤敬子(スヴェール愛徳会)▼各種講座(ノートパソコン、お花、お琴、ステンドグラス、カットアート、刺繡)開講中(見学随時)

◆コロロチエレス(聖歌を通じて祈りに役立つことを目的とし、入会時65才以下の音程の確かな女性であれば入会可)▼練習第2、第4、第5木曜日10時~12時

地区協議会から

- ▼イタリア巡礼旅行8月20日~28日 目的地 ローマ・アシジ・フィレンツェ・ヴェネツィア タイトル 聖フランチエスコに倣いて

(次ページ下段に続く)

修会「主日の典礼を豊かに」13日(土)10時~16時 唐崎メリノールハウス。講師=國井健宏師会

◆滋賀カトリック協議会▼典礼研修会「主日の典礼を豊かに」13日(土)10時~16時 唐崎メリノールハウス。講師=國井健宏師会



# 大塚司教の

## 7月のスケジュール

- 3日(水)中央協機構改革委員会15時  
福音宣教室18時
- 4日(木)中央協常任司教委員会10時  
新聞チーム会議16時
- 6日(土)男子カルメル修道会四十周年ミサ(宇治)11時  
7日(日)三重地区・北勢ブロック共同宣教司牧 司教訪問  
ミサと集会
- 9日(火)大阪京都合同顧問会15時  
10日(水)聖書講座19時半
- 11日(木)聖書講座10時  
12日(金)大阪教会管区教区代表者会議
- 13日(土)福音センター結婚講座  
14日(日)京都北部地区・舞鶴プロック共同宣教司牧 司教訪問ミサと集会
- 16日(火)青少年委員会・信仰教育委員会合同委員会14時  
17日(水)～18日(木)司教顧問会・責任役員会16時、引き続  
き司祭評議会常任委員会  
翌日12時まで。

19日(金)～8月1日(木)WYD  
(世界青年大会) 200  
2 トロント大会

## 中学生広島平和巡礼のお知らせ

今年も中学生による広島平和巡礼を企画しています。八月五日から七日にわたり被爆地広島で過ごし、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、人間の命の尊厳などを感じ取る事のできる有意義な巡礼にしたいと考えています。例



年、他の団体と一緒に平和行進、平和祈願ミサへの参加、碑巡りを行っています。去年は、被爆後人々がそれぞれの状況の中でどの様に行動したか、どの様な思いをもって悲惨な時を生き抜いたかという事について学び、考えた事が出来ました。今年は又、別の角度からのアプローチを検討しています。

この広島平和巡礼で戦争、平和、いのちについて学び、感じ取り、それらを日頃の自分達の生活に生かしていく貢いたいと願っています。日本の様に六十年近くも戦争のない国では、戦争そのものどころか、平和や人間の命についてさえ普段考える機会を失っています。ところが現在世界の各地では戦争による殺戮が毎日の様に起こっているでしょう。日本は今歴史的に

まれな状態にあるといつてい  
ます。さて、このまれな国の中で広島という所は戦争、平和、命について深く教えてくれる場所だと思います。この巡礼の中で皆さんの中には、どうして人間は戦争を引き起こすのだろうかと疑問を持つ人がいるかもしれません。六十年前に日本人は皆戦争を「いいものだ」と思っていたでしようか。日本人の人々は戦争をしていいと思っているでしょうか。戦争反対を主張すれば戦争はなくなるでしようか。皆さんはどうすれば戦争をこの世界からなくすことができると思しますか。

この巡礼では皆さんの中には何らかの疑問が生まれ、それを巡礼後の生活の中で解決していくエネルギーを提供できればと考えています。具体的な予定は、未定ですが、後日募集致しますので奮ってご参加下さい。

◆編集部から  
お知らせに載せたい情報は、  
月号でしたら7月15日までに、F 10 9  
月号でしたら8月20日までに、AXまたはEメールアドレス  
henshu@kyoto.catholic.jp  
にお願いします。

宇治教会  
○七七四 (一一一) 一八九一  
okumura@kyoto.catholic.jp